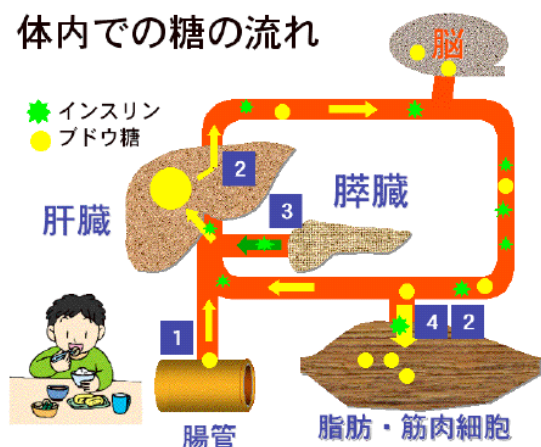


糖尿病のお薬について

糖尿病のお薬にはいろいろな種類があります

体内での糖の流れ



食べた栄養素（糖質）は腸でブドウ糖にまで消化されたのち血液中に吸収されます。血液中のブドウ糖は、全身の筋肉細胞や脳細胞でエネルギー源として取込まれて燃焼します。また余ったものは肝臓に蓄えられ必要に応じて再び血液中に放出されます。筋肉細胞へ取り込みにはインスリンというすい臓から分泌されるホルモンが不可欠です。健康な状態では、血糖が上がり始めるとすい臓はそれをキャッチしすぐさまインスリンを分泌することにより血糖値はいつも100mg/dlと安定しています。糖尿病では、すい臓からのインスリンの分泌が低下や筋肉、肝臓でのインスリン効果が減弱し糖の取込が低下することにより血糖値が上昇します。

1) **αグルコシダーゼ阻害剤** 腸内で糖質を分解する酵素の働きを抑えることにより糖の吸収を遅らせ、食後の高血糖を改善する薬です。

2) **ビグアナイド剤** 肝臓は血液から運ばれてきたブドウ糖を蓄えたり、放出したりして血糖値を調節します。この薬はブドウ糖の肝臓からの放出を抑え、筋肉への取込を増加させます。

3) **SU剤** すい臓から血糖値に従いインスリンが分泌され、ブドウ糖が体内（筋肉など）で利用されるのを助けます。この薬はすい臓からのインスリン分泌を刺激します。新しいもの*では（4）の効果を合わせ持つものもあります

4) **速効型インスリン分泌促進剤** 作用はSU剤と同様ですが、素早く効果が発揮され、速やかに消失しますので食後の高血糖を改善できます。

5) **インスリン感受性改善剤** ブドウ糖は血流にのり全身に送られ筋肉などに取り込まれエネルギーとして利用されます。この薬は筋肉細胞などでインスリンの効果を高め、効率良くブドウ糖が細胞内に取り込まれるようにします。

今回あなたがお飲みになる薬は次の通りです

薬剤名	製品名	服用法	朝昼夕
1) αグルコシダーゼ阻害剤	□ベイスン □グルコバイ □セイブル	食直前	
2) ビグアナイド剤	□メルビン □ジベトスB	食前食後	
3) SU剤	□アマリール* □オイグルコン □グリミクロン	食前	
4) 速効型インスリン分泌促進薬	□ファスティック □グルファスト	食直前	
5) インスリン感受性改善薬	□アクトス	食後	

1:薬を飲み忘れた場合

食後すぐに気がついたときはその時点で てください。

朝食または朝夕食 時の薬で、朝食時にのみ忘れた場合は昼に服用してもかまいません。朝食を抜いた時も昼食時に服用してください。

しかし1回分忘れたからといって2回分をまとめて まないようにしましょう。

2:薬の副作用は？

α グルコシダーゼ阻害薬	腹部膨満、下痢、放屁など、ごくまれに肝障害、低血糖
ビグアナイド	食欲不振、胃もたれ、まれに乳酸アシドーシス
SU剤	遷延性低血糖、肥満増強
インスリン感受性改善薬	足や顔のむくみ、まれに心不全、重症の肝障害 (アクトスでは報告無し)

低血糖について

糖尿病の薬は血糖値を正常域にまで下げるために服用するわけですがときどき血糖値が正常以下になります。これが**低血糖状態**です。血糖値が下がりすると**こん睡**をおこすこともあります。普通はその前に血糖値をあげようとアドレナリンなどのホルモンが分泌されます。このアドレナリンによる症状がいわゆる低血糖症状です。放置していると意識がなくなる**こん睡状態**になります。

症状: いらいら、動悸、冷や汗、手のふるえなど

いつ低血糖が こりやすいか？

低血糖がおこりやすい時間帯は昼食前や夕食前です

いつもより食べる量が少なかったり、よく動いた場合には起こりやすいです

また、旅行などで食事時間が不 則になる場合など食事時間がいつもより 遅れる場合にもです。普通にしているても こるようなら、薬を減らしていけるサインですが、自己判断で減量せずにご相談ください。

低血糖がおこったらどうする？ まず甘いものをとりましょう

砂糖1個、スティックシュガー1本、キャンディ1個

缶コーヒー半分程度で十分です。 あんパンを2個や、チョコレートをまるまる1枚などと取りすぎると血糖値があがりすぎるので注意しましょう。

ブドウ糖1gで血糖は約5mg/dl 上がります。

ただし、ベイスン、グルコバイを服用されている場合はブドウ糖そのものをのまない**と低血糖からの回復がおくれる可能性があります**